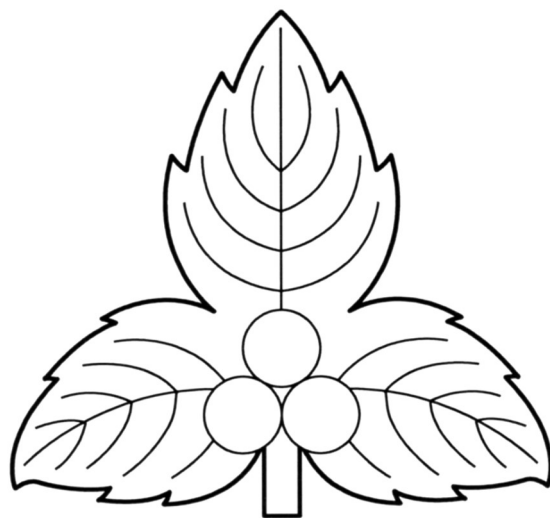


2022年度北海道大谷学園連合会  
高等学校相互評価報告書

対象校 帯广大谷高等学校



評価校：北海道大谷室蘭高等学校

(実施日：2022年12月15日)

2023年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

## 北海道大谷学園連合会相互評価委員会

主査	中西 猛雄（北海道教区大谷学園委員会委員）
委員	山田 寿雄（北海道教区大谷学園委員会委員、主査代理）
委員	金石 潤導（真宗大谷派北海道教区教化本部長）
委員	丸山 政秀（函館大谷高等学校長）
委員	佐藤 健一（函館大谷高等学校 事務長）
委員	小野 茂（帯広大谷高等学校 校長）
委員	佐藤 真司（帯広大谷高等学校 教頭）
委員	澤田 満（北海道室蘭大谷高等学校 教頭）

## 帯広大谷高等学校の概要

設置者	学校法人 帯広大谷学園
理事長名	桂井 智善
校長名	小野 茂
開設年月日	1923年3月
所在地	北海道帯広市西19条南4丁目35番1号
設置学科	普通科
入学定員	総定員 260名 (文理コース70名 普通コース190名)
教職員数	70名 専任 58名 非常勤 12名

## 調査結果

### I・II 建学の精神・教育理念・教育目標・学校目標・分掌

近年、受験者数、並びに入学者数の増加という結果で、地域の評価が向上していることが明らかなものとして理解することができる。長年の取り組み、継続性、また、状況を分析して先の行動につなげるなど、学園（学校）の努力が徐々に実りつつあるものと感じられる学校状況である。

少子化傾向が進む中でも、地域の私立高校において、受験者数、入学者数ともに増加している事は、何より学校評価が高まっている証明であると理解できる。

学習指導、進路指導、部活動のみならず、施設の管理、維持、その他多くの点で学園の努力が表現されているものだと感じられた。

このたびの校舎新築など、学園の将来像を見据えて、様々な点から今後の地域の動向を捉えていることから、常に前進することが期待できるものである。

### III 管理運営

管理運営面については定員超過による補助金減収が複数年続き、様々な方策により改善の試みがなされている。一方で管内における学校評価も着実に上がっており、管内公立高校合格者であっても貴校への進学を望む生徒が増加する等、合格ラインの設定に大変苦慮されているようである。

教職員の募集については教科や部活動を考慮し採用されているが、道内教職課程設置の大学や中学校期限付教諭に、積極的な働きかけを行ったり、教員募集サイトを有効に活用したり、適正な教職員配置を行っている。

### IV 財務

創立100周年の節目を迎え、現在、新校舎の建設中である。現校舎の施設説明をしていただく中、窓越しに新校舎の全体像を伺った。旧校舎についても使用できる部分については、有効に活用していくようである。また、新校舎建設に伴う返済計画の説明を頂いた。

返済は長期に渡ることと、7～8年後に人件費のピークを迎えることを考慮し、健全な遂行を願いたい。

財務の状況については、職員会議（総括会議）で収入・支出の内訳を教職員に対して懇切丁寧に行っており、学内の風通しのよさが伺える。

#### IV 改善・改革

教育現場（業界）の情勢、勤務のあり方、「働き方改革」等との調整は、諸機関より今後何らかの具体的な対応、措置を求められることも考えられるので、その点についての進展を期待したい。ただ、多くの教職員が自発的、自立的な取り組みにおいて、現在の学園があるものと理解できるので、いかにその活動を基準に沿って、負担なく継続していけるか、その選択については、参考にしつつ、本校の発展にもつなげていくヒントを得られるものと感じている。

道東、十勝地区の私学における中心的な立場として、今後も、総合的観点で生徒の育成に取り組まれることを確信し、10～30年後を期待できる学園であると実感した。

以上、調査報告とさせていただきます。

大変お忙しい中、訪問調査にご協力賜り、誠にありがとうございました。

今後の本校の運営にも参考にさせていただきます。

以 上